デジタルデンティストリーの近未来
―　データベース基盤型補綴歯科治療

公益社団法人 日本補綴歯科学会　理事長
昭和大学 歯科補綴学講座　教授
馬場一美

略歴

１９８６年３月，東京医科歯科大学歯学部卒業
１９９１年３月，東京医科歯科大学大学院修了（歯学博士）
１９９３年４月，東京医科歯科大学歯学部 助手（歯科補綴学第一講座）
１９９６年４月，文部省在外研究員米国 UCLA
２００２年７月，東京医科歯科大学 講師
２００７年１０月，現職
２０１３年４月，昭和大学歯科病院副院長
２０１９年４月，同　病院長・昭和大学執行役員
２０２１年６月，日本補綴歯科学会　理事長

【抄録】

デジタル・デンティストリーは歯科医療のワークフローを根本的に変えつつある．CAD/CAM を用いたクラウン製作過程のデジタル化はその代表例であり，ロストワックス法による従来型の歯科技工ワークフローが CAD/CAM によるデジタル・ワークフローに取って代わられようとしている．
さらに，口腔内スキャナーを用いて光学印象を行い，モノリシック・マテリアルを用いれば，模型を製作も不要となり，すべての過程をデジタルデータのやりとりで完遂できるモデルフリー・フルデジタル・ワークフローが可能である．こうしたワークフローは当初，クローズなシステムでのみ運用可能であったが，近年，オープン・システムでも可能となったことにより，今後，さらに普及してゆくと予測される．また，有床義歯の分野でもフルデジタル化の試みが行われている．
その結果，治療過程から治療アウトカムまでの形態データがすべてデジタル化され時間的・空間的制限なく共有・利用・保存することが可能となり，いわゆるデータベース基盤型補綴歯科治療が実現される．講演では臨床例を供覧しながら，デジタル・デンティストリーの今後の展開の中でキーとなるデータベース基盤型補綴歯科治療について解説し，デジタル・デンティストリーの未来について皆さんと考察したい．